

第3回 川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策 アドバイザー会議

説明資料 【第2回会議のご助言に対する対応】

令和8年9月15日



国土交通省 九州地方整備局 川辺川ダム砂防事務所

＜今後の調査・検討等にあたって留意すべき点に関する主なご助言＞

- 水を供給しやすい場所にビオトープを整備する等、整備箇所をよく考える必要がある。
- 移植先の選定で生息適地解析を実施するとある。今回の解析が先験的な事例になるとよい。
- 九折瀬洞の保全措置について、試験湛水時に水の浸み込みをどう防御するかが重要。
- 工事による影響を明確にする上で、洪水前後の状況をALB調査と河床材料調査を実施して、しっかり把握しておいた方がよい。
- ダム下流河川環境では、瀬淵構造が全川にわたってどうなっているか、今後どうなるかの面的なとらえ方が重要である。
- 濁水と水温の影響について、気候変動なども踏まえて、しっかりモニタリングすることが重要。
- モニタリングでは、本川の土砂動態だけでなく、支川や上流域の溪流環境をどう保全するのも重要。
- 魚道の上下流やトンネル上下流で調査を行って、移動状況を把握して、定量的な評価が必要。
- 川辺川アカデミアにおいて、地元の方々に濁度の測定を行うと良いのではないか。



いただいたご助言を踏まえ、今後の調査・検討等に反映。